

(2025年度) 地域連携推進会議 会議録

事業所名	「ゼノ」Home白雲		
サービス種別	共同生活援助（介護サービス包括型）		
開催日時	2025年10月2日（木）10:00～11:00		
開催場所	「ゼノ」Home白雲		
出席者	利用者		1名
	利用者保護者		1名
	地域関係者		2名
	※福祉に知見を有する方		
	※経営に知見を有する方		
	※行政関係者		2名
	事業所職員		3名
記録者			

(1) 利用者と地域との関係作り	地域のお祭りに参加し交流している。利用者さんからは「ビールやかき氷、フライドポテトなどを食べに行く」と伝えられた。 とんどへの参加について地域の方から尋ねられ、本日参加している利用者さんではない利用者が毎年参加し餅を焼いていることを伝えた。 地域清掃には利用者さんと一緒に参加し、参加できないときには出不足金を支払うなど、地域としての役割を果たしている。 ホームごとに自治会へ加入しており、班長を務めた経験もあることを伝えた。
(2) 地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進	保護者さまや利用者さん向けに作成したホーム便りを月間で送付し、各ホームのリビングなどに掲示している。 毎年最初の自治会へ利用者さんも一緒に参加し、地域で起こっている出来事や問題について一緒に聞いてもらっている。 地域の方と共に清掃活動を行い、利用者さんの認知を進めている。

(3) 施設等やサービスの透明性・質の確保	施設で過ごされている利用者さんの様子を毎月お便りでお知らせしている。ホームだけで完結しないよう、お仕事がお休みの日には障がいが重度の方であっても一緒に買い物に出るようにしている。
(4) 利用者の権利擁護	利用者さんの買い物については、基本的に自由に自分でお金を持って行ってもらっている。危険の認識が難しい利用者さんたちには同行支援を行い、仕事がお休みの日には買い物に行けるように支援している。 発語や自分の意思表示が難しい利用者さんには、意思表示できるようにツールを利用し、それさえも難しい場合には表情や様子から意思をくみ取れるように支援している。また、意思疎通ができる方であっても、自分の思いを表現することが難しい、思っていることが言えない方もおり、その方たちの思いを引き出していくことも大切な自分たちの仕事だと考えている。 利用者さんは自分たちの鏡であり、利用者さんが楽しく笑っている時には自分たちも笑顔でいられる。利用者さんたちがしんどくて辛い時は自分たちもしんどいと思っている。
(5) その他	利用者さんは自由に外出しているが、外部の人が来るかという質問を受けた。保護者さんは自由に来ており、昔は利用者さんの友人が訪ねてくることもあったが、今は無い。

(1) 利用者と地域との関係作り

施設等の利用者が地域の一員として生活を送るためには、利用者と地域との関係づくりが重要です。会議や構成員による施設等への訪問を通じて、利用者と地域の人との顔の見える関係を構築することで、日頃からお互いに声を掛け合えたり、利用者が地域行事に参加しやすかったりするような、利用者が地域の中でより良い生活を送るための関係づくりを目指します。

(2) 地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進

地域連携推進会議は、その名称からもわかるように、会議の開催や会議の構成員による施設等への訪問を実施することにより、地域に開かれた施設等になることを目指す会議体です。地域に開かれた施設等となることで、施設等や障害のある方の施設等での生活に対する理解を促進するとともに、施設等やその職員と地域の人との繋がりづくりを推進することを目的としています。

また、施設等の職員が地域の人を知るきっかけにもなり、施設等と地域の人の双方向による理解醸成が図られます。こうして地域との連携が深まることで、地域での事業運営がしやすくなり、効果的な事業運営に繋がることが期待されます。

(3) 施設等やサービスの透明性・質の担保

障害福祉サービスの質の確保・向上については、従来から重要な課題として様々な議論がなされてきました。基本的には、人員、設備及び運営に関する基準において、質が担保されている一方、サービス類型ごとに更なる質の向上の取組みがなされています。例えば、児童発達支援や放課後等デイサービスについては、支援の質の向上を図るため、独自のガイドラインが策定されています。また、日中サービス支援型のグループホームは、地域に開かれたサービスとすることにより、当該サービスの質の確保を図るため、（自立支援）協議会に対し定期的に事業の実施状況を報告し、評価を受けるとともに、当該協議会から必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならないこととされています。

通所系のサービスと比較すると、外部の目が入りにくくなりがちな施設等を運営する事業者についても、地域に開くことにより施設等の運営やサービスの透明性を確保するため、地域の関係者等を含めた構成員による地域連携推進会議の開催及び当該構成員が地域連携推進員として施設等を訪問する仕組みの構築が重要となります。

(4) 利用者の権利擁護

施設等では、利用者が障害により言葉で意見を伝えることが難しい場合も多いため、利用者の思いがサービスに活かされているか、利用者が希望する生活を送ることができているかなど、会議の中で話し合われることが重要です。なお、意見表出そのものが難しい利用者に対して、施設等側としても利用者の意思決定支援にどのように取り組んでいるか等を、地域の人に伝える良い機会にもなります。

(2025年度) 地域連携推進会議 見学会議録

事業所名	「ゼノ」Home白雲		
サービス種別	共同生活援助（介護サービス包括型）		
開催日時	2025年10月2日（木）11:00～12:00		
開催場所	「ゼノ」Home白雲, 「ゼノ」第3ホーム, 「ゼノ」第1ホーム, 「ゼノ」第6ホーム, 「ゼノ」Home虹		
出席者	利用者		1名
	利用者保護者		1名
	地域関係者		2名
	※福祉に知見を有する方		
	※経営に知見を有する方		
	※行政関係者		2名
	事業所職員		3名
記録者	サービス管理責任者		

(1) 事業所の雰囲気	【地域の方】 特に戸建てホームに関しては、一般家庭と見分けがつかず、暮らしの様子が自分たちとあまり変わらないという印象を持たれていた。また、皆さんが個室となっており、プライベートが確保されていることを確認された。 【福山市】 自分の持ち物を多く持っている自立度の高い利用者と、居室に置いてある持ち物が少ない重度の利用者との居室の差を目の当たりにし、少し驚いている様子が見られた。
(2) 利用者・職員の様子	【地域の方より】 平日であるため、利用者さんがほぼ居ないことに、少し驚かれていた。 【福山市】 買い物の場所が少し遠いものの、ハローズなどへ歩いて買い物に行っている方が多いことに対し、夏の暑い日は大変だろうと感想を話していた。 外国籍の職員が挨拶をし、彼らが欠かせない存在であることを伝え、驚いている様子であった。
(3) 建物について	【地域の方】 特に戸建てホームに関して、見た目がグループホームとは分からない普通の家と同じと言った感想をもたれていました。 グループホームの看板が無いことに対して疑問を持たれていましたが、利用者さん同士がお金を出し合って購入された経緯がある普通の家であることを説明させて頂いた。 【福山市】 戸建てのホームの老朽化と維持の難しさについて話を行なった。

(4) その他	【地域の方】 空き家を利用してグループホームや国際事業部の社員寮が増えていった経緯について聞かれ、空き家を活用してもらえるのであれば、むしろ嬉しいと伝えられた。 【保護者の方より】 建物自体が高い場所にあるため、災害時の避難場所になるのではないかと発言された。実際にそのことを考慮し、市より非常時の物資などを置いてほしいと依頼を受け備蓄していることを伝えた。 【福山市】 ホームの老朽化や利用者さんの高齢化により、ホームの転居を余儀なくされた場合には、生活環境が変わる利用者さんの負担は大きいのではないかと伝えられた。職員より、そのためにも「安心して住めるところはここだけではないですよ」と、利用者さんが自分自身でその後の選択ができるよう、選択肢を提示し、見学や体験を通して自分で選べるように支援することが大切だと考えていると述べた。
----------------	---